

=====

～ 日本肺循環学会ニュース ～

第 15 号 (2014/2/3)

<http://www.convention.co.jp/jpcs/>

=====

1. 施設紹介

症例登録研究に参加いただいている施設を、こちらで順次紹介します。
今回は、『福岡大学病院 循環器内科』です。

.....

福岡大学での肺高血圧 (PH) 診療を述べる前に、福岡大学循環器内科の紹介をさせていただきます。

朔啓二郎教授の下、冠動脈疾患・不整脈・末梢動脈疾患などを中心に急性期慢性期間問わず幅広く受け入れて診療にあたっています。福岡市の中心“天神”まで地下鉄で 16 分、九州の玄関ともいわれる“福岡空港”まで地下鉄で約 35 分という立地のなか、遠方からも多数来院されております。

肺高血圧診療に関してですが、非常によいシステムが構築できてきたと実感しております。過去には“労作時息切れ”に対し早期の診断がつかず、重症化して治療となる症例も少なく無かったと思いますが、現在は多くの紹介・連携により非常に早期に介入ができております。

例としては膠原病科との連携です。肺高血圧合併と診断症例は勿論の事、肺高血圧合併する可能性が高いハイリスク症例は、併診により経過観察を行なう事で重症化する前に診断・治療を行えるようになりました。具体的には問診・心臓超音波・DLCO 含めた呼吸機能検査・6 分間歩行試験等を適時行い、早期診断を心がけております。経過で早期に間質性肺炎の合併を診断する事もあり有益であると考えております。

また福岡大学は、2005 年より肺移植実施施設であります。九州で肺移植を行っている施設は福岡大学と長崎大学であり、福岡・佐賀や鹿児島・宮崎・熊本など南九州からも広く紹介を頂いております。肺疾患における out of proportion PH に関しましても呼吸器内科・呼吸器外科と連携を取り“吟味”しながら、治療介入を行う症例も含め、多くの症例に携わるようになりました。肺移植待機症例に合併した肺高血圧症例に関しても、その機序は単に低酸素血症に伴うものだけでなく、肺動脈性肺高血圧に機序が近い症例もあります。CTEPH も、従来は主に呼吸器内科が窓口でみておりましたが、バルーン治療の知見が広がるにつれ、循環器内科による紹介も増えてきております。

左心不全による肺高血圧に関しても、現在肺高血圧の有無が予後を左右するといった認識が広がり今まで以上に診断の重要性が叫ばれております。肺高血圧は右心カテーテルが必須なため、右心カテーテルをいかに“敷居を低く”行えるかが重要であります。科を越えた連携が、多くの症例登録につながった事は、今後の励みになります。今後も肺高血圧を含む肺循環疾患に対しまして、疾患の認知度を上げ、より早期に診断・治療と介入ができる体制をつくるべく精進したいと思います。今後とも、どうぞよろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。

(福岡大学病院 循環器内科：福田 佑介)

.....

2. 症例登録研究の登録状況について

2014/2/3 現在の登録状況をお知らせします。

【総登録数】 749 例 (12 施設)

登録施設：

1. 東北大学病院 循環器内科 409 例
2. 福岡大学病院 循環器内科 126 例
3. 三重大学医学部附属病院 循環器内科 118 例
4. 佐賀大学医学部 循環器・腎臓内科 29 例
5. 浜松医科大学医学部附属病院 臨床薬理内科 25 例
6. 兵庫医科大学 循環器内科 13 例
7. 神戸大学医学部附属病院 循環器内科 11 例
8. 富山大学大学院 医学薬学研究部 内科学第二 7 例
9. 京都府立医科大学 循環器・腎臓内科 6 例
10. 名古屋大学医学部附属病院 循環器内科 3 例
11. 山形大学医学部附属病院 循環器内科 1 例
11. 岡山大学病院 循環器内科 1 例

3. 症例登録研究の参加について

症例登録研究へのご参加を、是非ご検討ください。

ご参加いただける場合は、学会事務局までご連絡ください。

プロトコル等の資料を送らせていただきます。

倫理委員会承認後に、web システムの ID/パスワードを発行させていただきます。

また、テスト ID もご用意しておりますので、システムをご覧になりたい場合も学会事務局までご連絡ください。

※このメールは日本肺循環学会に e-mail アドレスを登録されている会員に配信しております。